

生まれる」といみじくも語ったように、彼等の苦悩を救い上げ、その視野を切り開き、犠牲者を出さずに革命を遂行できるという示唆を与えることができるのは、非暴力直接行動Vそのものの社

会的実体化によってである、ということに僕は肝に銘じておきたいと思う。
(一九七六・一・二二)

クロンシュタット・イズヴェスチャ V

九号 一九二一年 三月十一日

La Commune de
Cronstadt
-Cronstadt

Izvestias -

Delibaste 1969

吉原 文明・訳

イズヴェスチャ 九号

一九二一年 三月十一日 金曜日

市民への通告

権力を党ではなく、ソヴィエトへ！

通告

臨時革命委員会は、三月二日選出された代表者に、本日十六時駐屯地のクラブに集合するよう通報した。

○議事日程

ソヴィエト再選メンバーの組織

クロンシュタットの司令官について

「ベトロバプロフスク航路」「クロンシュタットの司令官」もしくは、「要塞司令部」が認めた通行証をもっている者のみに限って二三時以降の市街地の通行を認める。
何らかの部門及び省から交付された上記以外の通行証は、下記に列挙された認印を受けなければならない。

セムスコフ

クロンシュタットの司令官

戦闘報告

三月十日は、一晚中敵の大砲が北と南から強力な砲撃を続けた。

彼らに対する力強い抵抗が行なわれた。午前四時、共産党歩兵部隊が南側からの攻撃を試みた。だがそれは一掃された。午後八時まで共産主義者 攻撃を繰り返した。彼らは、われわれの大砲と守備隊の砲撃によって撃退された。

権力者たちは包囲された。

クロンシュタットは——かつて貴族たちが労働者、農民に彼らの法律をおしつけたと同様に、権力をわが物とした共産主義者——さん奪者たちに対して戦闘を開始した。

われわれはソヴィエトの自由な選挙のため戦うよう、すべてのロシアの労働者にアビールを送った。

われわれのアビールは聞き入れられ、赤軍兵士とベトログラードの革命的労働者たちは、われわれに協力した。

われわれは、ベトログラードに陸軍元師トロッキーが到着する前にすでに連合し、われらの隊列に加わった彼らに感謝する。その証拠に、チェカの連帯・騎兵軍の悪漢ども、その他の下種野郎どもは暴力行為にうつてた。

われわれは、共産主義者の司令部がクロンシュタットに対していつもながらの共産党部隊をよこしたことに満足してない。ところがそれは、念を入れて選ばれたならず者たちが利用されたことを示している。

ボルシェヴィキは次第に後退していることを感じている。彼らは、ベトログラードの街頭に集合したすべてのグループを撃ち殺すことを命令した。

権力者たちは狂乱し、神経をいら立て「雀を大砲で撃ち」殺しながら、誤りの上にも誤りを重ねている。

ベトログラードの労働者たちは、彼らの後方を攻撃した。まもなくさん奪者たちの権力は崩れ去るだろう。

臨時革命委員会の形成

三月一日午後二時、水兵・赤軍兵士そして労働者たちの集会がソヴィエト行政委員の承認の下に革命広場で行なわれた。

一万五千人ほどの人々が参加したその集会は、行政委員長・同志ヴァシリエフを委員長とし、ベトログラードからやって来た二人の同志カリニン（中央行政委員長）とクズミン（バルチック艦隊人民委員）の参加の下に開催された。

この集会の主題は、バルチック第一及び第二艦隊の乗組員たちの一般集会によって採決された「決議」を討論することにあつた。採決された「決議」とは、目下進行している諸事件と無政府国家、更には一般的崩壊の危機にある国土のすみやかなる解決方法をすぐさま討議することであつた。

この「決議」進行にあたつて、まず労働者・農民のための真の権力が表現されなくてはならず、それにあたつて、ソヴィエト権力の威嚇があるのは必至であり、議事を継続することは不可能に近いことを聴衆のすべては知っていた。

共産主義者・同志カリニンとクズミンは、このことを理解しようともせず、彼らの発言は会場をうめつくした会衆に反響を及ぼすことも感動させることもできなかった。その結果、集会は満場一致で採決された乗組員の「決議」案を認めた。

翌日、行政委員の認可と『イズヴェスチャ』に発表された指示に従って海軍・守備隊・工場及び組合のそれぞれの組織から二人の代表者たちが三百人ほど教育会館（元技術学校）に集まった。権力側の代表者たちは当惑し、その幾人かはクロンシュタットを離れた。

このような状態の下で戦艦「ペトロバブロフスク」の乗組員たちは、建物を防衛し、いかなる暴力からも代表者たちを守ることが任務と感じた。

続いて会議が同志ベテリチェンコによって開催された。役員を選出した後、バルチック艦隊の代議員クズミンに了承を求めた。だが守備隊や労働者が権力や共産主義者の代表者に対し激昂しているにもかかわらず了承することを拒んだ。

集会の任務は新たな情勢を創造するために、平和的な解決方法を見い出すことであつた。特に乗組員たちの「決議文」が宣言しているように、より広範な基盤の上でソヴィエトの再選が行なわれるような組織を作らねばならなかつた。

以前のソヴィエト権力の委任統治は、ほとんど共産党員から成り、もつとも緊急な生死にかかわる問題を解決する能力のないこととはつきりしており、任期も終わりに近づいていたので、なおのことこの仕事は急を用いたのであつた。だが同志クズミンは討議においてもこれらの諸問題を悪化させるだけで、解決の糸口を見い出そうとはしなかつた。

彼らはクロンシュタットの曖昧な立場や斥候隊、二つの勢力——ボーランドの危機とわれわれを見つめている全ヨーロッパ——について語つた。彼は同様に、ペトログラードにおいては、すべ

てが平和であると主張した。更に彼は、自分は代議員たちの手の内にありもし彼らが望むなら、自分を撃ち殺すことも出来るのだと強調した。そして彼は次のようなことを言明した。「もし代議員たちが戦いを始めようと望むのなら、やるがいい。共産主義者は政權を譲りはしない。そして最後の一人まで戦う」。

この馬鹿げた演説はもちろん代議員たちの神経をいらだたせるのみであつた。続いての行政委員長ヴァシリエフの演説は完全に無視された。

代議員たちの圧倒的多数が共産主義者に敵意をもち、それを明らかにした。それでも代議員たちは、権力側と共通基盤を見い出そうという希望を捨てなかつた。なぜならば、すべての会衆がその日の議事日程を作製し、効果的な議事を始めるにあつて一致協力することを求めたからであつた。

議事日程がとり決められた。だが、それにもかかわらず同志クズミンとヴァシリエフを一時的に軟禁状態にすべきだと判断された。それは、会議を進めるにあつて彼らがいでは不可能であり、それには種々な理由があつた——共産主義者はたえず余分な兵力を貯えており、民衆は電話を許可されておらず、赤軍兵士が共産主義者によつて行なわれる個人的脅迫に対して怒ることすらできず、なぜならば、人民委員たちはすべての戦斗部隊の結集を禁止していたからであつた。同志クズミンとヴァシリエフは、このようにして要塞の司令官を追放していた。

代議員たちは共産主義者に対する敵意を隠してはおかなかつた。また幾人かは共産主義者を全員逮捕せよという提案をした。それにもかかわらず、共産主義者の委任代議員はそのまま会議に残つ

て無党派の同志と共に議事を続けていくべきであると決定された。

この事實は、無党派の代議員——赤軍兵士・水兵・労働者たち——は、採決された「決議」が必然的に一つの党としての共産党と決裂をまねくだろうとは考えていなかったことを示している。彼らは依然として、共通の言葉を見出すことが出来るだろうと考えていたのだった。

同志ベトリチェンコの提案に次いで、前日の決議文が読まれた。それは圧倒的多数の代議員によつて可決された。

その時戦艦「セバストポリ」の代議員が緊急動議を提出した。彼は小銃と機関銃を持った一五台の武装部隊が、この会場に向つて進軍していると報告した。

だがこのニュースは、共産主義者が集会を解散させるために用いた虚報であることが分つた。しかしその虚報が伝えられた時は、周囲の状況から——特に会議に反対する権力側の敵対や、一般的緊張状態からみて——代議員たちがそれを信じて当然のことだった。しかし冷静沈着なる精神は、議長の下に採決された決議文を出発点として、会議は決議の条項を現実具体化するのに必要な方法について討議し始めた。

代表団をベトログラードへ送るという提案は、おそらく代表者たちが逮捕されるであろうという判断から否決された。

その後、数人の代議員が、この執行部を臨時革命委員会に編成すべきであるという提案と、執行部はソヴィエト再選挙を準備することを引受けるべきだという提案がなされた。

この決議がなされた時、武装した二千人が集会場へ向つていると知らされ、集会は閉会されて、列席者たちは教育会館を出た。

秩序を維持する任務を持った臨時革命委員会が戦艦「ベトロバヴロフスク」に置かれ、すべての労働者・赤軍兵士・水兵・農民たちの利益となるよう、都市の秩序が回復される日まで、臨時革命委員会はそこに置かれることになった。

共産主義者が語つたクロンシュタットの真実

十月革命による実効あるソヴィエト権力の実現は、深くその足跡を残し、今日の革命運動のレベルを高めた。

だがそれにもかかわらず、クロンシュタットで起つてゐる小事件に関し、ベトログラードの共産主義者同志は、無意識的に、或いは計画的にクロンシュタット情勢の叙述をすべて偽言で飾つてゐる。私はこの事の公表を差し控えることはできない。

私は誠実な共産主義者として、共産主義同志が繰返してゐる嘘やベトログラードの新聞に記載された虚報を嘆く。

すなわち記載された記事には、クロンシュタットで起つてゐるすべてのことが白色擁護者の仕業であり、または、共謀国のスパイと結託したコロブスキー將軍のもくろみであるとか、更にはクロンシュタットがベトログラードを攻撃するためにフィンランドと同盟を結んでゐる……などと語られてゐる。

事実その場へ行つてみれば明らかなことであるが、何故このような事態が生じたかを知るべきである。すなわち、ベトログラードでは、燃料の欠乏によつて仕事場や工場は閉鎖され、食糧危機、更には労働者大衆の逮捕、このような歪曲したソヴィエトの統治に対する不信によつて引き起された擾乱であるからなのだ。だがクロンシュタットの現象は、燃料や食糧配給の問題などの理由か

らではない。すなわち、すでにベトログラードで繰り返されている不穏なざわめきは、「ベトロバプロフスク号」の乗組員たちが逮捕の中止や、すでに逮捕されている囚人の釈放要求をすでに決議したことなどで明らかになる。

錨広場で三月一日行なわれた集会において、守備隊と皆の人民の前に「ベトロバプロフスク」号の水兵たちの「決議文」が提出された。その集会には、全ロシアの行政委員長・同志カリニン、バルチック艦隊の人民委員・同志クズミンも同様に出席していた。決議文は、(同志カリニン、クズミン、ウァシリエフを除いて)修正されることなく満場一致で採決された。

この決議文の最も基本的で重要な部分は、ソヴィエトの再選であり、アナキストも含めたすべての左翼政治団体が、労働者大衆の意志を実際に代表し、ソヴィエトのメンバーに参加することであった。この意向に対する解答として具体的に示されたものは、例えば、ベトログラード地方(それはベトログラードソヴィエトの命令の下に)に特別に配属された軍事中隊の引き上げであり、限定されていた政治的自由を取り戻すものであった。また「ベトロバプロフスク」号のすべての水兵の決議に基づくソヴィエトの大統領要求は、新大統領を緊急に選出することであった。

市民の皆さん、国家のため手を取り合い、他の人々と共にこれらの仕事を協同し、可能性をわれらに与えたい。

共産主義者によって引き起された内戦で生じた、すべての抑圧・死刑・そして破壊は、事態を悪化させるのみである。

私は権力を支配するため入党した、他の利殖主義者や出世主義者とは違って、私と共に在る共産主義者同志を確信している。

ロシア共産党々員・ボラーフ

労働者と農民の同志へ

クロンシュタットは共産主義者たちのさん奪権力に対する戦いを開始した。

クロンシュタットは最初の流血の惨事を避けた。そして、それは労働者と農民の解放のための戦いであった。

あなたがたの敵は、あなたがたを欺いている。彼らはあなたがたにクロンシュタットの事件は、メンシエヴィキと共謀国のスパイ、更にはツァーの將軍どもによって組織されたと語っている。彼らはこの事件に関し、パリからの命令を受け取ったと断言した。それは嘘である。それはみんな恥知らずな嘘っぱちでしかない。

最近起っているすべての事件は共産主義者たちの仕業である。

それらの事件とは、彼らがここ三年来続けてきた破壊工作と殺戮である。国内のいたるところからわれわれの下に届いた手紙は、共産主義者たちについての苦情や呪いの言葉でいっぱいである。

休暇から戻った同志は、国中で聞きおよんだボルシェヴィキによって行なわれている、恐怖政治について語った。更にわれわれ自身も、身辺で起っているすべてのことを見たり、聞いたり、感じたりしている。それらすべては、困苦と激怒しかない。われわれはそれらの誤謬に対し武装し、弾劾しなければならぬ。

われわれは過去に悔りたくはない。われわれはブルジョアジーの下僕ではない。共謀国の謀人でもない。われわれは全労働者の権力の味方であって、どのようなひとつの党の限度を知らぬ暴君の味方でもない。それは労働者大衆のものである。クロンシュタ

ットにはコルチャックもデニキンもユーデニッチもいない。

クロンシュタットの赤軍兵士・労働者のすぐれた感性だけが、われわれのはいり込んでいる、袋小路から脱出できる方法を見出した。それはツァーの將軍どもではない。

危機からの脱出は、共産主義者たちが彼ら労働者や農民に完全に理解させていた。それは彼らが、労働者・農民の危機の救出の為にと誤報を撒いていたからだ。彼らは、われわれの運動が自己擁護者たちによって指導されている、と流布し努めている。

彼らは失敗しなければならぬ。

最初のうちわれわれは、すべてを平和的に解決しようと願った。だが共産主義者たちは譲ろうとしなかった。ニコライ二世よりも彼らの方が権力にかじりつき、独裁制を施したために国全体を血の海に溺れさせた。

そして現在、そのことがロシアの悪霊であるトロツキーが、われわれに對しわれらの兄弟や息子をけしかけている理由である。

クロンシュタットは、ここ四日間敵に對して抵抗している。

トロツキーは毎日クロンシュタットを攻撃している。だがやがて間もなく死期が訪れるであろう。

「カデット」と共産主義部隊は、欺きながら、脅迫しながら機関銃を端から端まで乱射している。

赤軍兵士はわれらの隊列に加わり行動を共にしている。共産主義者たちは孤立している。彼らはチェカの死刑執行人を雇い入れている。

労働者同志諸君！

クロンシュタットはあなたがたのために、寒さのために、飢えと無宿の人々のために戦っている。

ボルシェヴィキが権力の座についている限り、よりよい生活などありえない。それは三年の間、彼らはあなたがたに寒さで痛んだジャガイモを与えて来たではないか。彼らは最も耐えられない生活を毎日強要し続けて来た。そしてあなたがたは、このことを全面的に支持している。

何の名においてか？

共産主義者たちが安楽に暮らし、人民委員が肥えるためだけに

か？

あなたがたは今だに彼らを信頼しているのか？

同志諸君躊躇するな！

新たな奴隸制の鎖をたち切れ！
農民同志諸君！ボルシェヴィキ権力が最もひどくだまし欺ってきたのは、それはあなたがただ。

数世紀の間、夢見つづけて来たあと、君たちが地主から取り上げた土地はどこへいったのか？それは現在あなたがたの新しい主人である共産主義者の手中にある。彼らは、あなたがたから持ち去ることのできるものはすべて奪った。あなたがたの現在の唯一の権利、それは共産主義者のくびきに従うのみである。それは飢えに耐え、路頭にある悲惨な状態を受け入れているのである。

同志諸君、クロンシュタットは数百万の労働者と農民がアピールに應えるであろうと望んで叛旗をひるがえした。

クロンシュタットに今日訪れた状態は、いつか全ロシア中に輝く希望であらねばならない。

クロンシュタットで生じた爆発は、全ロシアを甦えらせねばならないが、それは特にベトログラードだ。

われわれの敵は牢獄を労働者でいっぱいにしたが、まだすべてではない。最後まで行動を決意した人々がたくさん自由でいる。同志諸君、共産党絶対主義打倒の戦いに起き上がろう。

最後のニュース

ペトログラード防衛委員会の命令によると、路上で五人以上集まってグループを結集することは禁止された。もし違反すれば死刑に処される。

町の雰囲気は消沈している。

チェカの小グループ、共産主義者とカデットが守備隊に代つて、すべての部門の代理を勤めている。

守備隊のある部隊が暴動を起した。

オラニエムバムの模写に砲弾が落ち、共産党司令部の建物に命中し、一部隊が全滅した。

一五両の列車に満載された兵隊が、ポーランド国境へ緊急に送られた。

戦死者と負傷者の名簿（五月八〜十日十二時迄）

(一) クロンシュタット守備隊（部隊の違つた四〇人の氏名と彼らの遺留品

(二) 攻撃者（カデットの五人の氏名）

同様に数名の負傷者あり、水兵二人、市民一人、三四人の赤軍兵士

投獄された共産主義者の食糧配給

○ 正規な一日分食糧配給 〓 四分の一ポンドのパン、軍用ビスケット八分の一ポンド。

○ 特別食糧配給（一カ月に一度） 〓 ○・一二ポンドの肉と魚、○・〇四ポンドのジャガイモ、○・二ポンドの脂肪、○・四ポンドの砂糖、○・七二ポンドのコーヒ、○・三ポンドのタバコ、二箱のマッチ。

これら一日分の食糧配給は、食糧補給問題が皆の中で改善されるまでと決定された。

投獄された共産主義者に対してとられた処置

共産主義者一仮囚人は履物を必要としないと思われるので、二八〇足の履物がクロンシュタット周辺地の守備隊へ与えられた。その代わり、ズツクぐつが共産主義者に支給された。

守備兵のための一日分特別食糧配給

この一日分食糧配給は三月期に決定された。砂糖半ポンド、キヤベツ二ポンド、ジャガイモ一ポンド四分の三、五〇本のタバコ、一箱のマッチ。

赤色クロンシュタット、自由ソヴィエト万歳！

左翼、右翼の反革命分子は下劣だ！

真実の閃光

臨時革命委員会と新聞の編集局は、脱党した共産主義者たちの声明書の雪崩によって仕事が出来ぬほど混乱している。

全く数えることが出来ない！ スペースがないので到着した順番にまとめて掲載しなければならない。

すべての脱党者たちは、赤軍兵士、欺かれた労働者、スローガンやデマ話を信じた党の知識人たちである。一人、三人、五人、十人、二十人、百人、千人、万人、十万人、百万人、何かがその脱党を意味するのかわかっているか？

権力をとった労働者からの復讐を恐れてか？ いや断じてそうではない！ 彼らの真実所以であり、彼らの目は開かれていく！

党を最終的に去ろうとしたある労働者のその声明書の証言によると、「わたしたちは脱走者ではない！」「目は真実で満たされている！」

それは労働者の血であり、権力を防衛し、人民に反逆し、快楽のために流血の惨事を求める大罪人によって目を開かされたのだ。そしてすべての正直な労働者たちは、デマゴギーの一団からこそって離れようとしている。

不正直者と犯罪人——あらゆる等級の人民委員とチェカ員と、飢えた労働者・農民の金で肥っている大立者たち。人々の血で勝ち取った宮殿や博物館などを奪いとったあと、彼らのポケットは金でいっぱいになった——以外だれ一人として、その一団にとどまろうとしない。

これらすべての無頼漢はいまだ希望をもっている。空しくも！ ツアーリズムとその警察のくびきに打ち勝った人々は、共産主義者の奴隷制からも脱出するだろう。

労働者たち、すなわち完全な真理である。

編集スタッフ・協力者募集

本誌『アナキズム』も一〇号をむかえ、さらなる誌面充実・刷新のため編集体制の強化につとめています。

読者諸氏の「アナキズム編集部」への積極的な参加・協力による現実に密着した雑誌づくりを考えていますので、有志の方は編集部宛連絡を！

アナキズム編集委員会

〔定期購読者・募集中〕

月刊『リベロ』（アナキズム情報紙）

購読料 年間一〇〇〇円（送料含）

発行所 京都市左京区田中門前町二八の五

リベロ社（振替 京都四四四三）

隔月刊『リベロ・インターナショナル』（英文）

アジアのアナキズム運動誌

購読料 年間一五〇〇円（送料含）

一部 二五〇円

発行所 神戸市中央郵便局私書箱一〇六五

CIRA・NIPPON国際部